

愛川町教育委員会

平成31年1月21日

愛川町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 会議日程 平成31年1月21日（月）
午後2時00分から午後2時52分まで
 - 2 会議場所 愛川町役場2階201会議室
 - 3 議事日程 日程第1 前回会議録の承認について
日程第2 教育長報告事項について
(1) 教育長報告
日程第3 協議事項
(1) 卒業式・入学式「教育委員会のことば」について
日程第4 その他
(1) 平成31年第51回愛川町十四歳立志式について
(2) 第73回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会について
(3) 中学2年生職場体験の評価・反省について
 - 4 出席委員 教育長 佐藤 照 明
教育委員（教育長職務代理者） 榮 利 隆 一
教育委員 平 田 明 美
教育委員 梅 澤 秋 久
教育委員 大 貫 洋
 - 5 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 山 田 正 文
指導室長兼教育開発センター所長 藤 本 謹 吾
生涯学習課長 折 田 功
スポーツ・文化振興課長 松 川 清 一
教育総務課主任主事 大 谷 麻由香
-

◎開会

- （佐藤教育長） こんにちは。

本日の出席者は5人であります。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会1月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでありますから、ご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

- （佐藤教育長） 初めに、日程第1、前回会議録の承認についてを議題といたします。

12月の定例会分でございますが、会議録につきましては、既に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特にないようですので、質疑を終結し、表決に入ります。

日程第1、前回会議録の承認について、本案を原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1、前回会議録の承認については、原案のとおり承認されました。

なお、定例会終了後に会議録署名原本をお返しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第2

- （佐藤教育長） 次に、日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

それでは、第1、教育長報告について、資料1に基づき報告をいたします。

平成30年12月11日から平成31年1月20日までの間に出席いたしました主な会議について、ご報告させていただきます。

12月11日、小・中学校教頭会議。学期に1回の会議であります。教頭に学校運営について、お話をさせていただきました。

この会議終了後、引き続き業務改善検討委員会を行いました。

12日、子育て中の親と町長との懇談会。子育て支援センターが会場で、参加をしてまいりました。なお、学校関係の質問はありませんでした。

13日、学校訪問。中津第二小学校へ学校訪問をして、プログラミング学習等について話をしてきました。

厚木地区の私立幼稚園協会懇親会。夕方、レンブラントホテル厚木でありました。

14日、町議会定例会4日目。

16日、若者たちの音楽祭4。4回目ということで、今回も盛大に行うことができました。

17日、清川村教育長さんが来庁されました。

18日、神奈川工科大学訪問。今後のプログラミング学習の連携について、全小学校で取り組んでいく方向で依頼することができました。詳細については、今後、詰めていきたいと思っています。

午後、町青少年問題協議会の会議が201会議室でありました。

19日、教職員人事ヒアリング。各学校から来年度の生徒数、クラスなどについて、説明をしてもらいました。

20日、全国大会出場奨励金交付式。今回は2人、菅原小学校6年生の橋本さんが全国道場対抗剣道大会に出場。そして、山田さんが全日本卓球選手権大会に出場。お二人に奨励金を交付させていただきました。

同じく文化協会役員忘年会がありました。

24日、林家たい平さん、林家三平さんの「二人会」がありましたが、会場はほぼ満席でした。

午後、あわせんざい茶会。中津地区の茶道協会の会長さんにお声かけいただきましたので、参加してきました。

25日、行政経営会議。

26日、県央教育事務所長訪問。

27日、県教育委員会教育長訪問。今進めております温かい中学校給食の実施について、報告を含めて訪問してきました。

28日、仕事納め式。

1月4日、仕事始め式。

5日、愛川町消防出初め式。

10日、町議会全員協議会。今回は案件がなかったので、臨時会は開きませんでした。

町商工団体の新春講演会・賀詞交換会が文化会館であり、参加しました。

11日、愛川中学校教諭の告別式に行ってきました。

夕方、若手教職員研修会。年2回、昨年度から実施しておりますけれども、今回、17名の先生方が参加しました。自己イメージについての講話と意見交換をいたしました。

12日、町福祉団体合同新年賀詞交換会。

13日、町一周駅伝競走大会、成人式。

14日、読書普及講座。今年から町主催となり、講師にNHKラジオアナウンサーの村上里和さん、ラジオ深夜便で毎月第2、第4木曜日をご担当されておられる現役のアナウンサーの方をお招きしました。心に響く朗読をということで、とても中身の濃い講演会でした。

16日、県央教育事務所長来客。

17日、町村教育長会宿泊研究会。真鶴町で行われました。

18日、神奈川県公民館大会。来年、愛川町で神奈川県公民館大会が開催されるということで、大会旗を引き継ぎに行ってきました。

19日、町体育協会賀詞交換会。

20日、青少年健全育成大会。文化会館3階で行われました。

それでは、これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

- (佐藤教育長) それでは、特に質疑がありませんので、教育長報告事項についてはご了承願います。

◎日程第3

- (佐藤教育長) 次に、日程第3、協議事項について議題といたします。
初めに、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についての説明をお願いします。
指導室長。
- (藤本指導室長兼教育開発センター所長) 指導室長です。

それでは、お手元の資料2をご覧ください。

最初の表裏が小学校、中学校の卒業式のしおりにとじ込んでいただく「教育委員会のことば」、次のものが小学校、中学校の新入学、入学式の際にとじ込んでいただく「教育委員会のことば」ということで、示させていただいております。

文章につきまして、昨年度からの大きな変更はございません。昨年度いただきましたご意見も踏まえ、小学校の卒業生の皆さんへの1番前、下から6行目のところでは、「大きな希望と夢を胸に」を、「大きな夢と希望」と語順を入れかえております。

それから、中学校卒業式のしおりに載せる言葉につきましては、昨年度との変更はございません。

また、小学校の入学式も変更はありません。先ほど、気づきましたが、平成31年の「31」が、ここだけ明朝体になっておりますので、ここは修正して、裏面の中学校と同じような形になると思いますが、統一を図りたいと思います。

最後の裏面、中学校の新入生向けのものでございます。上から4行目、昨年までは「真新しい制服に腕を通し」とありましたが、昨今の事情等から、リサイクル等の利用等も考えられることから、シンプルに「中学校の制服に腕を通し」という形に改めましたので、2点が変更点でございます。

ご検討いただきまして、各学校に掲載をお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

○（大貫委員） 1つお願いします。

○（佐藤教育長） 大貫委員。

○（大貫委員） これは、「教育委員会のことば」で、4月5日は新入生だから小学校だと思うけれど、4行目に「学習や遊びを通して」とあります。「よく遊びよく学べ」なのか、「よく学びよく遊べ」のなのか、1年生から一生懸命勉強しようと言っているのか、楽しく勉強してくださいという順番にするのかという、単純な意見です。

○（佐藤教育長） そうしますと、学習と遊びの言葉の順。

○（大貫委員） そう。小学校低学年、1年生だから、最初は「よく遊びよく学べ」の順番じゃないかなと気になりました。個人的には、まだ1年生だから楽しく遊んでほしいという気持ちがありますので検討してください。

- （佐藤教育長） 関連で他にご意見があればお願いします。
梅澤委員。
- （梅澤委員） 私は、この学習と学びということの違いがわからないなと思っていて、つまり学習や遊びを通して学習しというふうに読めてしまいます。それが1つ気になる点です。
例えば、授業や遊びを通していろいろなことを学びという形にすると、学習あるいは学ぶということの似たような言葉の重複が避けられると思います。
- （佐藤教育長） 「学習」を「授業」に変えるわけですね。
- （梅澤委員） そうです。それがいいかどうかは、議論の余地がありますが、この文自体に学習、英文にするとラーニングが2つ入ってくると思われるので、そこは気になります。
- （佐藤教育長） 他にございますか。
- （大貫委員） 前回は似たようなことを言いましたが、これだけ一生懸命考えているけれども、どれだけの人が読み取ってくれるか。
- （佐藤教育長） たくさんの人が読んでくれると嬉しいですね。
他にありますか。
- （佐藤教育長） 藤本室長、どうぞ。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 今のご意見、確かに学習と学びというのは、私も見ていて思いました。そこを授業に変えるとなると、大貫委員さんの説明で、やはり「遊びや授業を通していろいろなことを学び」とした方が、より教育委員会が考えて寄り添っていると思います。その形でいかがでしょうか。
- （大貫委員） いいと思います。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 「遊びや授業を通していろいろなことを学び、たくさんの人と友達になってください。」と、それでよろしいでしょうか。
(「いいと思います」との声あり)
- （佐藤教育長） よろしいですか。
では、その部分を「遊びや授業を通していろいろなことを学び」に変更いたします。
- （梅澤委員） 細かいところでよろしいでしょうか。
- （佐藤教育長） どうぞ。
- （梅澤委員） 例えば、同じ入学式のページですが、本文の下から4行目あたり、「過ごしてください。」の「て」と「く」が異常に狭い感じを受けます。
- （大貫委員） 句読点の影響かも。

- （梅澤委員） そうでしょうね。これは、ポイントのせいなのか、あるいは上にルビがない行だからだか。すごく狭いところとそうでないところの差があるように思えます。
- （佐藤教育長） フォントの変更で直るならば、そうしていただいた方がいいかもしれないです。行数を増やせば、直りますよね。
- （大貫委員） そうですね。丸がついているから縮まったのだらうね。
- （佐藤教育長） 少し行数を延ばせば、その部分が改行するかもしれない。修正してみてください。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） はい。
- （梅澤委員） それに合わせて、右揃えができていない段落調整になっています。
- （大貫委員） これ、ルビがあるからそうなるんじゃないかな。
- （梅澤委員） 多分、右にそろえる文書設定をすれば、直ると思います。ただ、フォントによってはそこがずれやすいフォントがあるというのも事実だと思います。他を見てみるとそうではないですよ。
- （佐藤教育長） 指導室長、直してください。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） わかりました。お預かりして、きれいに見えるように直したいと思います。
- （梅澤委員） せっかく教育委員会が出すものなので。
- （大貫委員） 上の「ください」も何かおかしい。
- （梅澤委員） そうですね。「ください」の見え方が変ですね。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） これもちよっと。
- （大貫委員） 「友達になってください」というのと「過ごしてください」の「ください」が何か違うね。どうでしょうか。
- （梅澤委員） 見やすいようにご修正いただければ、よろしいかと思います。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） プロポーショナルなど、どこかあるのかもしれませんが。確認してみます。
- （佐藤教育長） 他にございますか。
(発言する者なし)
- （佐藤教育長） では、今のところの文章変更と、全体的にレイアウトの関係も含めて、もう一度見直しをしていただき、きれいに見えるように設定をし直していただきたいと思えます。

よろしいでしょうか。

榮利委員さん、何かありますか。

○（榮利委員） いえ、中学校の入学式の言葉の「ください」は、きちんとなっていますね。
最後のページのところ。

○（佐藤教育長） これ、小学校だけ幅が狭くなっているような気がします。そもそも幅が狭いよね。

○（藤本指導室長兼教育開発センター所長） 調整を図ります。

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） それでは、他に質疑ありませんので、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についてはご了承願います。

日程第3、協議事項については、以上とさせていただきます。

◎日程第4

○（佐藤教育長） 日程第4、その他を議題といたします。

初めに、平成31年第51回愛川町十四歳立志式についての説明をお願いいたします。
生涯学習課長。

○（折田生涯学習課長） 生涯学習課長。

先日開催いたしました成人式では、おかげさまで無事に実施することができました。教育委員の皆様には、改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、平成31年第51回愛川町十四歳立志式についてご説明させていただきます。

資料3をご覧ください。

第51回目となります本年度の立志式は、文化会館ホールで平成31年2月1日の金曜日に開催し、午後1時の開式を予定しております。

第1部の式典は午後1時から、第2部の講演は午後2時頃からを予定しております。第2部の講演は、本町出身の冒険家、荻田泰永さんを講師にお招きし、極地への挑戦をテーマとした講演が行われます。資料の最終ページに講師のプロフィールを掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

このしおりは、昨年度と同じレイアウトとなっております。見開き左側に町民憲章、右側に愛川町教育大綱を掲載しております。

皆様、当日受付が終わりましたら、文化会館応接室を控え室としてご利用ください。その後、職員がご案内をさせていただきます。この会議終了後にご出席、ご欠席のご確認をさせていただきます。

なお、幾つかの新聞社などから取材の申し込みがありましたことを、あわせてご報告いたします。

説明は以上となります。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） 特に大きな変更はなく、講師の先生が変わったということぐらいでしょうか。あとは昨年度と同じように進めていくことになっております。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） それでは、特にご質疑ありませんので、平成31年第51回の愛川町十四歳立志式についてはご了承願います。

次に、第73回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会についての説明をお願いします。

スポーツ・文化振興課長。

○（松川スポーツ・文化振興課長） スポーツ・文化振興課長。

先日の町一周駅伝競走大会、そして「スポーツの町宣言30周年記念事業」につきましては、スターター等、また執行に当たりまして、特段のご理解とご協力をいただきありがとうございました。

さて、本日は、資料4によりまして、第73回を迎えます市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会、こちらのご案内をさせていただきます。

資料の1ページ、期日につきましては、平成31年2月10日、日曜日。これに先立ちまして、2月5日火曜日には選手団の結団式、そして大会終了後、当日に解団式を行っていくところでございます。

資料をおめくりいただきまして、6ページをご覧くださいますと、愛川町区間を通過する概ねの時間が把握できると思います。10時30分過ぎから10時50分ぐらいの間に、町内、荻野から津久井に抜ける走路を選手達が走ります。ご都合よろしければ、ぜひとも選手達にご声援をよろしくお願いいたします。

追加資料でお配りしました、本日が提出期限で完成いたしました名簿でございます。本大会に当たりましては、監督、コーチ、マネージャー等のスタッフも一新し、また、選手も若返りを図り、町村の部3連覇を目指そうというところでございます。選手団からは、チームの紹介ということで上がってきていますので、ひとつご紹介をいたします。

一昨年、昨年と町村の部2連覇の愛川町チーム、今年は中学生・高校生、大学生の伸び盛りの選手が集まり、エースが抜けた穴を若い選手みんなでカバーしながら、まさに1秒を削り出す走り、町村の部3連覇を目標にたすきを繋ぎます。選手団一同、町村の部優勝を目指して頑張ることと期待されておりますので、皆様のご声援のほどよろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

走るメンバーは決まっていますか。

スポーツ・文化振興課長。

○（松川スポーツ・文化振興課長） はい。ご案内いたしましたとおり、追加資料をご覧いただきたいと思います。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 市町村対抗「かながわ駅伝」については、これでよろしいかと思えます。冒頭にご挨拶ありました町内一周駅伝大会について、反省が多分なかなかできないかと思うので、一言お礼とお願いをさせていただきたいと思えます。

まずは、ずっと懸念であった女子選手の参加について、スポーツ・文化振興課長のお計らいで、松蔭大学の女子駅伝部の参加、非常に良かったなと思っております。加えて、2部で細野区からなでしこチームという形で女子のチームが参加できたことも、非常に良かったと私は思っています。直接お声がけに行ったところ、今年度限りでというお話をされてきました。非常に残念です。できればこういうのに表彰をつけたいなと個人的には思っていますと伝えると、ならばやりますというお返事が来ました。ますます2部、女子表彰枠をつくっていただきたいと思えます。

やはり何となく参加するだけならば、地域の補欠であっても、あるいは寄せ集めであってもどんな集団でも出られます。やはり女子だけでやっているというところに非常に価値がある。ここでいうのは、男女共同参画社会において価値があるということです。同じ案件をこ

の教育委員会で話す。しかしながら、競走要素が強いスポーツのイベントに女性が参加しないと、この中にすごく矛盾が生じることになってしまうと思います。少しでもそういうきっかけになるものであるならば、ぜひ女子の表彰枠をつくっていただきたいと思います。

今後、検討する場所が幾つかあると思います。しかし我々の意見がこういうふうな形で検討委員会から上がってきましたという段階では、恐らく遅いと思われるので、次年度の検討段階からこういう意見が教育委員会から上がっていますという前提でスタートしてもらった方が、前向きに進むかなと思われます。

そこでの予算建てであるとかそういうものについては、また今後の検討材料になると思いますが、数万円のカップと少しのお金によって、スポーツに参加する人が、スポーツに参加する女性が増えるのであるならば、私は安いものだというふうに解釈しています。

ぜひ女子の参加が増えるような手だてを、引き続き講じていただければ幸いに存じます。今年度は、非常に僕は良いきっかけになったいい大会だったと思っています。ぜひ今後、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○（佐藤教育長） スポーツ・文化振興課長。

○（松川スポーツ・文化振興課長） まずもって、今回参加された女子チームに関するご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

梅澤委員からお話ありがとうございましたとおり、検討段階、初期段階から次年度、女子の参加並びに表彰枠の設定についてご検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

来年度に向けて、さらに枠を広げていくような形で検討していくということでございますので、よろしくお願ひします。

他にございますか。

町一周駅伝競走大会、30周年記念事業等あわせて何かございますか。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 30周年のイベントがとても良かったと思っています。芝生のところ、トラックの内側のフィールドの中で、子ども達が本当にいろんなイベントに楽しそうに参加をしていて、まさに遊びと運動を融合したような形で、いろんな活動に取り組んでられる姿、すごく良いと思いながら見ていました。

やはり、今、ジュニアの育成、小さい子達にエネルギーをかけることと、高齢者側により健康を維持していただくために少しずつ圧をかけること、この2つが大事だと言われています。本当に子ども達が楽しそうに運動、遊びに参加している姿はいいなと思いながら拝見していました。とても良い30周年記念イベントだったと思っています。

以上です。

- （佐藤教育長） 他にありますでしょうか。
- （大貫委員） 1つだけお願いします。
- （佐藤教育長） 大貫委員。
- （大貫委員） 記録の集計にいつも時間がかかって、我々はその実情が分かっているからいいけれども、役員さんは、「まだなのか」という状況が毎年あります。役員さんは、大体2年で交代してしまうから、交代した次の年はさらにそうですね。

今後、区長会議や監督会議等の際に、町から、実はこういう理由で記録の集計に一生懸命やっているけれどもどうしても時間がかかるんですよということを、説明する必要があると思います。「何だ、まだできないのか」という声を聞くのは、やはり嫌ですね。だから、先に説明しておけば、区長さんも地元へ帰って役員に説明するだろうし、監督も選手や随行者の人達に伝え、時間がかかるのは仕方ないということを知ってもらっておく必要があるとつくづく思いました。あれ以上は、一生懸命やっているんだけど、早くできないんですよということをわかってもらうために、やはり一生懸命、説明した方が良いでしょう。

テレビでやっている駅伝とか、最先端のものだからすぐデータが出てくるよね。だけど、そうはいかないというところを理解してもらうことは必要だね。

- （佐藤教育長） 周知をお願いしたいと思います。

今回の閉会式について、30分ほど予定より遅れましたけれども、話を聞いてみると、仕方ないという部分も実はあります。そうはいっても、待っている方にとってはそうではないので、松川課長を中心に、会でも検討していただきますけれども、来年は予定時間になったら閉会式を始められるような対応を考えて行きましょうという話になっています。どうなるかわかりませんが、最後まで集計を待っていると、どうしても今回みたいに遅れた場合には、どうにもなりませんので、まだ30分遅れだったから良かったですが、その後の成人式にも影響してしまいますので、予定時間になったら開始できたらと思っています。

- （大貫委員） 表彰の準備ができたものから先に表彰すればいいのでは。
- （佐藤教育長） そういう方法も……

- （大貫委員） 5年、10年、参加者等を先に。
- （佐藤教育長） 例えば、今回も5チームほどはたすきが繋がっています。ですから、全部の記録が出るまで待たなくても、表彰だけは、上位のチームはできてしまうんですね。ですから、ある時間で区切る必要があります。それ以上、最後まで待つと次が回っていかないので、予定時間になったら始めてしまうような対応をとってあげれば、クリアできるのかなと思います。今回のような不測の事態でも対応できるかなと思います。

今回は2カ所あったようで、1件目は秒数の繰り上げ、コンマ二桁ありますが、それを繰り上げずに報告が上がってきたところがあり、それで時間がかかったことと、それから棄権をしている、要するにインフルエンザでお休みだったのに、その報告がうまく伝わっていませんでしたということで、この2つが合わさってしまったために、データの集計ができなかったというようなことが、実は今回ありました。その辺のところを来年度また再度徹底をするんですけれども、そうは言っても何があるか分かりませんので、またそのところで同じことになる、大変でしょうから、その辺のところも詰めて検討をしていきたいと思っています。

- （大貫委員） 唯一、今年は幾らか天気が穏やかだったな。
- （梅澤委員） そうですね。
- （大貫委員） あれで雨や雪が降っていたら、待っているのは嫌だよな。
- （佐藤教育長） そうですね。

平田委員、どうぞ。

- （平田委員） 記録係りの部屋にいましたが、本当に大変です。皆さん専門家がやっているわけじゃないじゃないですか。あのメンバーは、総務課の方ですか、どこがやっていらっしゃったのですか。
- （佐藤教育長） 総務課ではなくて、人で選んでいます。毎年、変わっていません。
- （平田委員） 何年越しでやっていらっしゃる方がほとんどということですか。
- （佐藤教育長） そうですよ、松川課長。
- （松川スポーツ・文化振興課長） はい、経験に基づいて人選をしています。
- （平田委員） はい、わかりました。

私、今回、筆耕を頼まれてまして、先ほど言った5位ぐらいまで分かっていたら、どんどん書くことをしたいと思います。ただ、教育委員の立場にいなきゃいけないのに、何も見られなくて、学童のところが見られませんでした。だから、そういう意味では残念だなと思いました。ただ、タイムがちょっとでも合わなかったら、またやり直し出で、本当に、

記録係の大変さはよく分かりました。

それともう一つ、水差すようなことを言いますが、梅澤委員さん、悪いですけども、先ほどの松蔭の方が、女子のところで表彰をしてもらわないと参加しませんという内容は……

○（梅澤委員） 参加しませんと言っていたのは、松蔭ではなくて細野です。

○（平田委員） どっちにしても、表彰がないと参加しないというのは、私の中では理屈が合わない、と申し訳ないですけども思いました。女子を出すということも大変だったけれども、今回、それを出してくれたということは、町としてもすごく良いことじゃないですか。区長さん、頑張られたと思います。ただ、その成果的なものの枠の、表彰がないというのが、私の中ではひっかかります。そういうものを差し上げることによって、やりたいという気持ちになるのは良いことですが、ただ、表彰をいただけないと参加しないという内容は、どうなのかなと思います。

○（佐藤教育長） 梅澤委員。

○（梅澤委員） 成績動機づけという理由ですけども、であるならば、全部の表彰を取っ払った方が良いと思います。それが生涯スポーツの本質であるならば、全部の表彰を取っ払う。それでもやるのが生涯スポーツですよと教育委員会で謳って実施する。

でも、多分そうなると、参加しない区がほとんどではないかと思えます。つまり、成績のためや表彰のためというのは、あくまでも外発的動機づけですが、正の外発的動機。つまり、やはり賞賛されたいから、褒められたいから頑張るというのは、人間誰しもあるものですよ。そうでないと、5キロも4キロも3キロも走ろうと思わない気持ちは、正直わかります。私もこの2階まで急いで上がってきただけで心拍が上がってしまうぐらいなので、それを5キロ走りなさい、たすきを繋ぎなさい、誰かのためになんだけれども、もしかするとその中の一部にトロフィーのために、賞状をもらえるかもしれないからというのが、やはりスポーツ、競走かなと思われま。

何とか杯というのが各スポーツのところで必ずついて回るというのは、やはりその成績、勝敗に基づいて成績があるからスポーツというのは存在するものだと思うと、やはり表彰があるから参加したいという動機は、残念ながら生じてしかりかと私は思います。もちろん、そのためだけというのは、何かいやらしく聞こえますけれども、逆を考えてみたらどうなのかということ。

○（平田委員） 逆に、偉いですよね。細野区の女子達が、それをいただきたいという気持ちを正直に言うということが。

- （梅澤委員）　そうですね。
- （平田委員）　梅澤委員さんにお話ししたわけでしょう。
- （梅澤委員）　はい。
- （平田委員）　それで彼女達がお答えしたわけだから、そういう意味では、自分達の考えを持っているということですよ。
- （梅澤委員）　そうですね。
- （平田委員）　仕方なく参加したなら、別に表彰などは要らないわけだから、そういう意味では大したものだと思います。
- （梅澤委員）　その気持ちを大事にしたいと思います。
- （大貫委員）　特別参加賞などを設定しておけば、そこで表彰できたけれどもね。
- （佐藤教育長）　男子と比べると体力差がかなり出てしまうので、同じ土俵で勝負をするのは気の毒かなというのは、多少ありますけれども。

松蔭大学の方は来年も参加してくれますか。特に何も言っていませんでしたか。

スポーツ・文化振興課長。

- （松川スポーツ・文化振興課長）　ただいまのところ、予定はございません。今回は記念事業の一環としてお招きした経緯がございます。通常の駅伝事業におきましては、皆様ご存じのとおり、要項には入れることができない、参加条件として入れることができませんので、今回は記念事業の一環として、そしてなおかつ教育委員さんのアドバイスをいただきました関係で、女子の参加を促した経緯がございます。
- （佐藤教育長）　女子のチームについては、例えば要項の見直しもあってもいいかなと、個人的には思います。また意見が出るかもしれませんから、よく検討していただいて、愛川町の一周駅伝競走大会にふさわしいものになっていけばいいかなと思います。

他にありますでしょうか。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長）　よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長）　それでは、「かながわ駅伝」競走大会については、以上でご了承承願います。次に、中学2年生職場体験の評価・反省についての説明をお願いします。指導室長。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長）　指導室長です。

資料5、平成30年度職場体験及び職場体験検討会議の評価・反省についてということでまとめたものでございます。

2ページ目以降のグラフにつきましては、後ほどご覧いただければと思います。1枚目のところに基づいて説明をさせていただきます。

アンケートは生徒、保護者、事業所、そして教員という形で例年っております。

今年度、生徒アンケートから見えてきますことにつきましては、自分の将来について考えることができた、また、職場体験について保護者と話ができたという項目が、昨年度よりも若干下がって80%以下となったというところがございます。

当日の活動についての項目では、自分たちで判断してできたと肯定的に答えた生徒が90%以上おりました。

保護者アンケートから見ますと、生徒、要するに帰ってきたお子さんと職場体験の内容や様子について話し合ったと答えた保護者は90%を超えて、逆に昨年度を上回っております。このあたり、生徒の意識と保護者の意識に少しずれがあるのかもしれませんが。一方で、そこから話が深まって、将来の進路や職業について話し合ったとの答えは60%にとどまっていたことから、会話が広がり深まるような情報提供等が今後必要であると考えます。学校で、例えば、職場体験の意義や、たよりで、それをきっかけにこんなことを話してみましようというような視点の提供も必要かと考えております。

事業所からのアンケートでは、肯定的な回答は、ほぼ昨年度と同様でございましたが、挨拶や言葉遣いなど社会人としてのマナーについての大いに改善が必要であるというのが、1.3%ですが、厳しいご指摘をいただいたこととなります。そこを真摯に受けとめまして、改善を図る必要があるということと、このあたりは、やはり職場体験に行く前の事前指導のところ、学校で丁寧にやっていく必要があると思います。

教員のアンケート、概ね肯定的な評価でございましたが、保護者との連携については、昨年から引き続き課題が残っているということで、家庭との連携を深めていく必要があるかと思っております。

ここでは保護者のアンケート、記述の部分の部分を載せておりませんが、教員のアンケートもそうです。やはり体験先等が割り当てでありますので、どうしても希望的には第1希望へ行けないというようなことが出てきたり、そういうこともございますので、そこを踏まえた上で、保護者からも子どもは希望したところへ行けなかったようですというようなこともいただいたりもしますので、そのあたりについては丁寧な説明と、可能な限りなるべく子ども達が希

望するところで体験ができるような体制づくりを目指したいと考えております。

ちなみに、職場体験につきましては、町は大変特徴的で、全中学校が一斉の日に決めて行ってという形をずっととってきております。来年につきましても、そこは崩さずにということで、今後、あり方については検討していきますけれども、今年と同じ形ということで、11月6日水曜日から8日金曜日で一斉に職場体験を行うということで反省が終わりまして、次年度に向けての準備を始めるところとなっております。

説明は以上でございます。

○（佐藤教育長） では、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見ございましたらお願いいたします。

大貫委員。

○（大貫委員） 事業所アンケートの大いに改善が必要であるというのが1.3%あった、ごく少数だけでもあった。これは、先生方の仕事が増えてしまうことになるけれども、そういうような子どもが行く事業所には、事前の報告や連絡が当然必要ですよ。それをしないでそのまま行って、挨拶もしないと、もう見え見えなので、これは担当の先生だけでなく、担任の先生も自分の分担の事業所が決まったら、前もって挨拶に言っておかないといけないと思います。そうすればこの大いに改善が必要であるという数値が限りなくゼロになるのではないかなと思いました。先生方も大変なのはわかるけれども、やはりそこは一手間かけた方が良くと思います。

でも、今、中学校の様子を聞くと、以前に比べれば数段生徒の様子は良いので、この数値の1.3%というのは、少ない方だと思います。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（藤本指導室長兼教育開発センター所長） パーセントで言いますと、要するに、1事業所ぐらいからいただくと、このような数字にはなります。ただ、大貫委員さんがおっしゃられたような、結構心配でという生徒について、挨拶等に行っていないところはありますし、また、そういう生徒は町役場で体験をすることもございますが、やはり普通に見えているけれども、行った先で挨拶がきちんとできずに、指示されないと何か待つ姿勢等も、どうしても出てしまう……。

○（大貫委員） 受け入れてくれる事業主さんも、そういう自分が育てた、自分の息子や娘が育った時とは違う子どもだというようなことを分かってもらおうということも、必要だよ。やはり仕方ないよね、我々の口癖じゃないけれども、今の若い者はと出てしまうから。

- （佐藤教育長） 平田委員。
- （平田委員） これを見ると、「挨拶をしっかりすることができました」で、子どもたちは大いにできたになっていますよね。だけれども、事業所の方はそうじゃない。
- （藤本指導室長兼教育開発センター所長） 意識、そうですね。
- （平田委員） 意識がね。子ども達はしっかりやったという意識があると思うので、この差はやはり先ほど大貫委員さんがおっしゃったとおり、時代背景が事業主さんにあると、私も思います。
- ただ、学校も子ども達のことが、挨拶もさることながら、いろんな会話が、そんな言葉使ってはいけないじゃないのというのを、聞き逃しているというのが多分にあると思います。そういうのは少し教えないといけないかなと思います。
- （大貫委員） 中学生、昔の中学生と違うと言ってしまうと、今、大学卒業しても社会人としてのマナーはそこから教えるからね。まだ中学生ですから、その辺、よく理解してもらって。
- （佐藤教育長） 梅澤委員。
- （梅澤委員） 世の中には中二病みたいな言葉があるぐらいなので、一番世の中に背を向けたいというか、斜に構えたい時期にこういうことをやっているということなので、僕はよくできていると思います。去年も話しましたがけれども、本当に少ない予算の中で成果が上がっている事業の一つだなと思います。本当にご対応いただいた先生方や教育委員会事務局の方にねぎらいの言葉をかけたいなと思います。
- （大貫委員） 教育委員会を中心に、町が全面的に事業所の開発をやってくれるからできることで、大きな市ではできないでしょうね。
- （佐藤教育長） 今、3日間実施しているところも少ないので、大体2日が限度で、少ないところは1日です。そこを3日、愛川町はやっていますので、そういう面でも、子ども達にとっては勉強の良い機会かなと思います。その分、事業所に迷惑かけているという状況はございますので、大貫委員さんが言われるように、特にやはり連携を密にとり情報提供しながら、子どもと関わっていただくことも必要だろうと思いますので、その辺はまた各学校に伝えていただいて、より充実した職場体験ができるように進めていただけたらと思います。
- 他によろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） それでは、職場体験の評価・反省についてはご了承願います。

◎閉会

- （佐藤教育長） 本日の案件については全て終了いたしましたけれども、各委員さんからご意見、感想等がありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） 特によろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 成人式は特になかったですけれども、よろしいでしょうか。何か感想などはありますか。特によろしいですか。

（「はい」との声あり）

それでは、特にございませんで、事務局から何かございますか。

（「ありません」との声あり）

- （佐藤教育長） 特にないようですね。

それでは、以上で1月の定例会の議事日程は全て終了いたしましたので、閉会したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、1月の定例会を閉会といたします。

長時間にわたりまして大変お疲れさまでございました。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

平成31年2月26日

教育委員会教育長

佐藤 照明

教育委員会

教育長職務代理者

栗利 隆一

教育委員

平田 明美

教育委員

梅澤 秋久

教育委員

大貫 洋

調整職員

大谷 麻由香